

宮間参考人(千葉県松戸市)

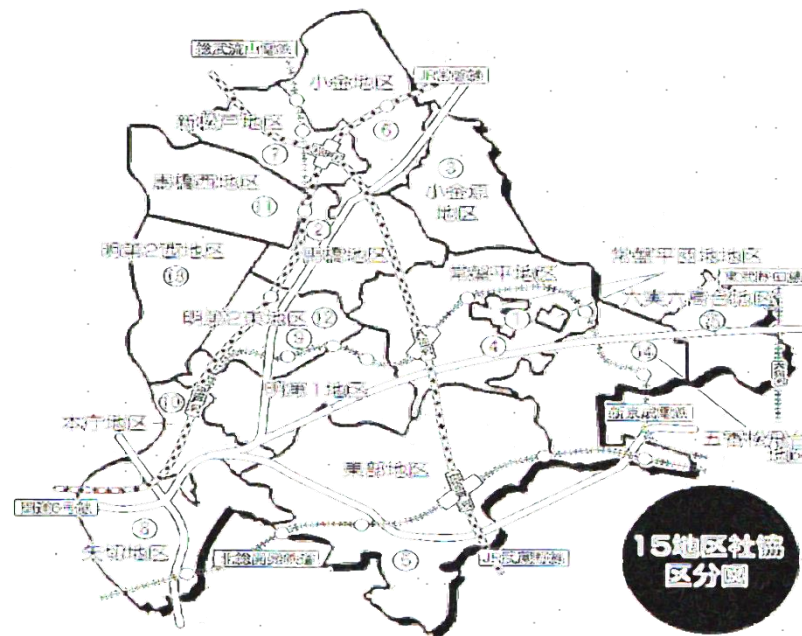
提出資料

地域共生社会に向けた包括的支援と
多様な参加・協働の推進に関する検討会

松戸市版 地域共生社会に向けた取り組み

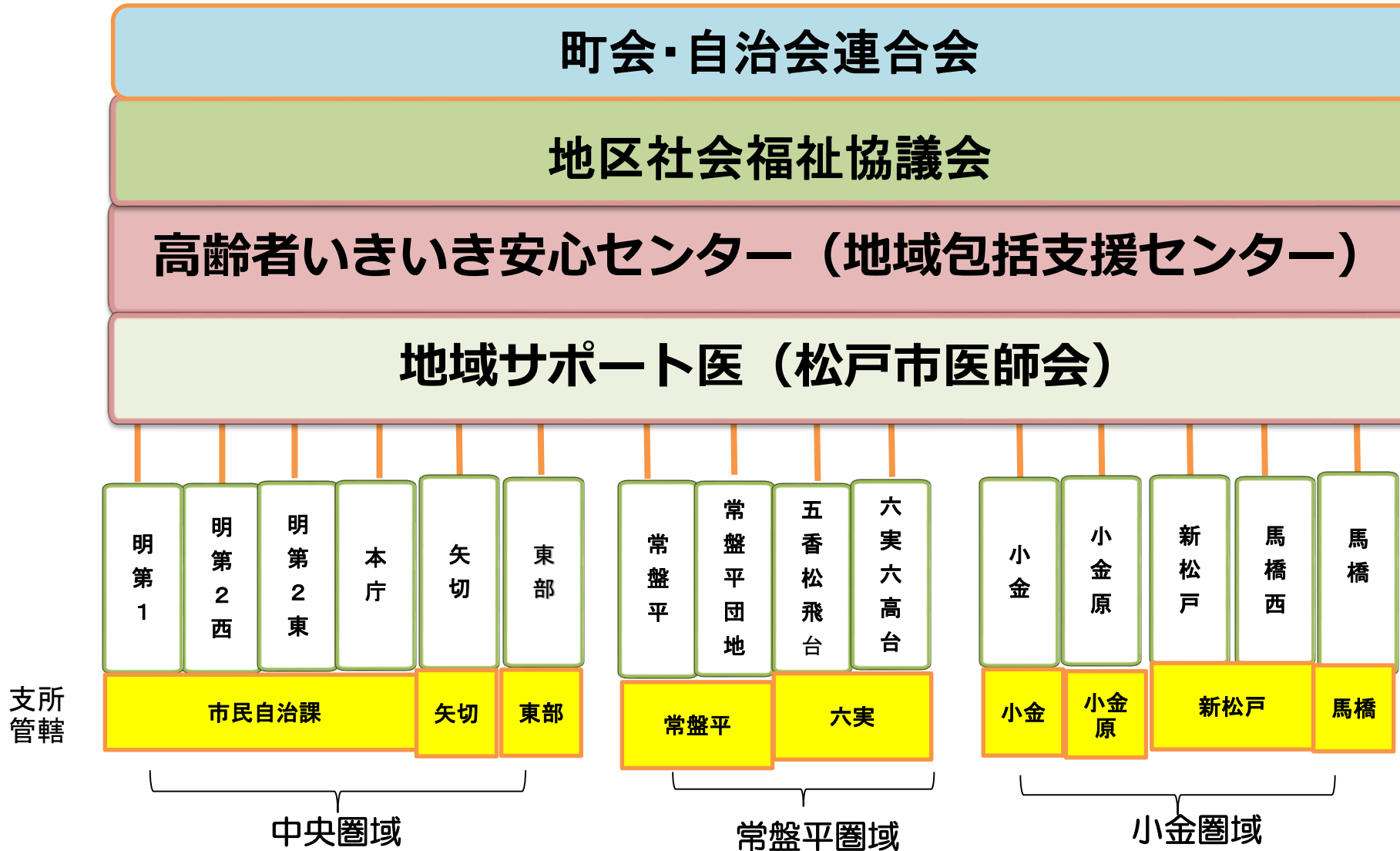
令和元年5月28日

松戸市の概要



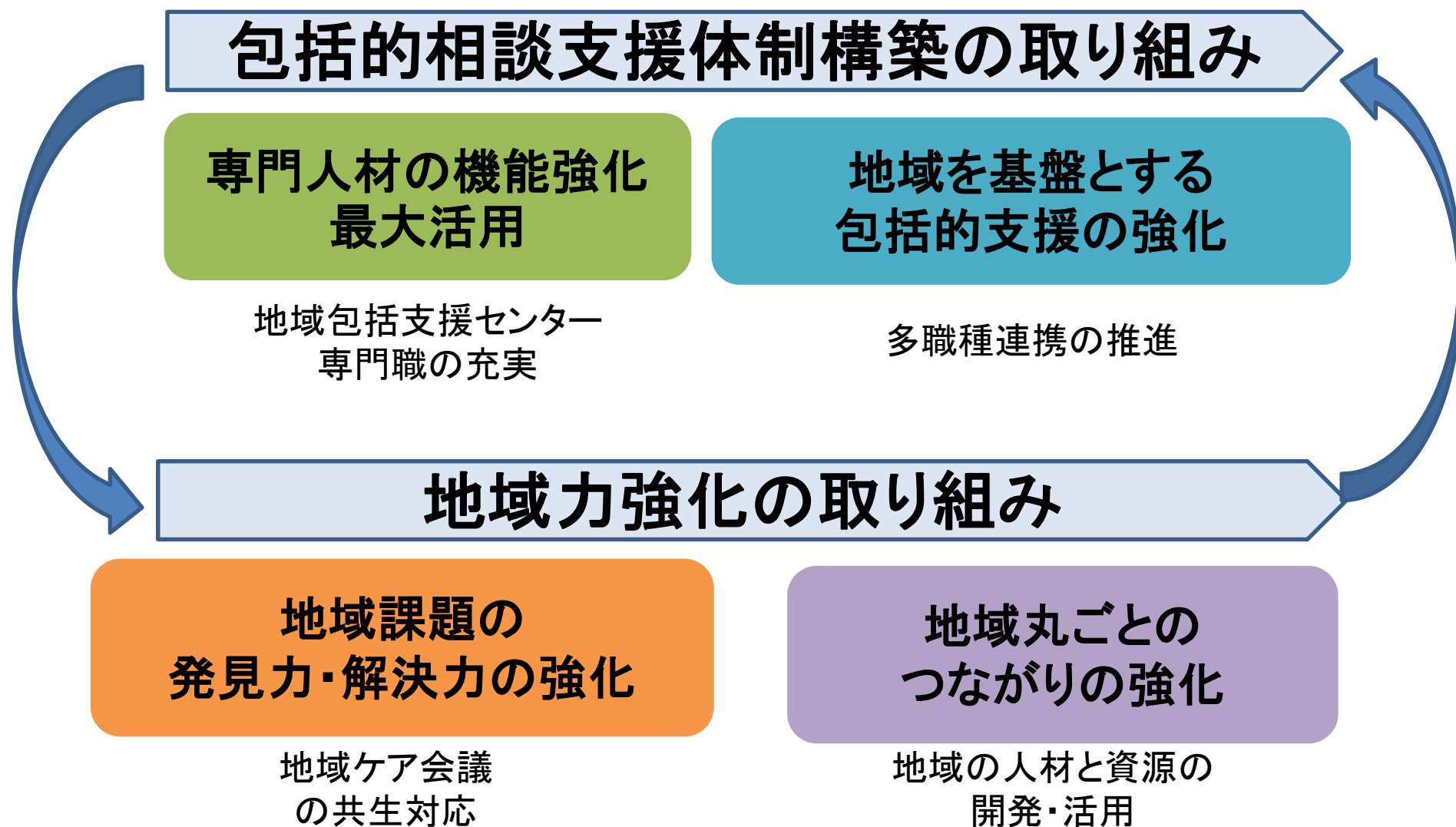
	平成30年 4月 1日	平成31年 4月 1日
総人口	494,733人	496,961人
65歳以上人口	124,826人	126,497人
高齢化率	25.2%	25.5%

松戸市の日常生活圏域（地区社協単位）



○ 町会・自治会連合会、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターの地域割りは15圏域となり、連携を強化！福祉だけでなく市民生活の課題を15圏域で発見し解決する仕組みが求められている。

施策の方向性



多分野における相談機関で構成される「福祉相談相談機関連絡会」（29年度開始）を定期的・継続的に開催するとともに、参加機関を順次拡大することを通じて、多分野における相談機関の連携を深化。

● 所掌

- ・本市における相談支援の実態把握
- ・実態把握を踏まえた体制における課題の抽出及び推進体制の検討
- ・福祉総合相談支援のための連携の推進
- ・個別相談事案の検討・支援
- ・その他総合相談支援の検討に必要な事項

● 構成メンバー

- ア 中核地域生活支援センターほっとねっと
- イ 松戸市基幹相談支援センターCOCO
- ウ 松戸市自立相談支援センター
- エ 松戸市社会福祉協議会相談センター
- オ 松戸市高齢者いきいき安心センター
- カ 親子すこやかセンター
- キ 松戸市基幹型包括支援センター
- ク 地域福祉課
- ケ 生活支援一課
- コ 障害福祉課

● 事務局

松戸市基幹型地域包括支援センター



福祉まるごと相談窓口の設置

平成30年度の取り組み

- 平成30年4月 高齢者支援課基幹型地域包括支援センターに福祉まるごと相談窓口を設置【体制】

基幹型包括の保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー、看護師（非常勤）に加え、新たに精神保健福祉士（非常勤）を配置

【相談内容の例】

厚労省通知を根拠に高齢者支援課・障害福祉課・子ども家庭相談課で費用を案分して予算化

- ① 近隣住民からの、高齢の両親の年金で生活していた世帯の両親が死亡したため、ひきこもりの息子（40代）とその子ども（高校生）の生活相談。
- ② 要介護状態の父親からの、ひきこもりの息子（高校生）の教育相談。母親は外国籍。

【実績 H30.4～11】新規相談受理件数 140件 内訳

対象者の年齢		世帯構成		対象者分類（延数）	
0～19歳	11	単身	41	子ども・若者	10
20代	4	夫婦	8	障害（身体・知的）	22
30代・40代	29	未婚の子と高齢者	50	精神障害	45
50～64歳	31	既婚の子と高齢者	9	高齢者	62
65～74歳	25	3世代	9	生活困窮	14
75歳以上	33	その他	9	ひきこもり	28
不明	7	不明	14	その他	12

- 制度の狭間にある方
 - 課題が複合的にある世帯
 - どこに相談して良いかわからない方
 - 広域的な支援が必要な方
- 等について一緒に考え考え、必要なサービスをご紹介したり、担当の課におつなぎします。

令和元年度松戸市の多機関による包括的相談支援体制

精神保健福祉士
(包括化推進員)

基幹型地域包括支援センター
福祉まるごと相談窓口

精神保健福祉士
(包括化推進員)

在宅医療介護連携支援センター

中央親
子すこ
やかセ
ンター

明第1
福祉ま
るごと
相談
窓口

明第2
西包括

明第2
東包括

本庁
包括

矢切
包括

東部
包括

ハートオン

連携

精神保健福祉士
(包括化推進員)

障害分野の相談

地域ケア
会議

地域ケア
推進会議

地域個別
ケア会議

常盤平
親子す
こやか
セン
ター

五香松飛
台福祉ま
るごと相
談窓口

常盤平
団地包
括

常盤平
包括

六実六
高台包
括

ハートオン

連携

精神保健福祉士
(包括化推進員)

障害分野の相談

小金親
子すこ
やかセ
ンター

小金原
福祉ま
るごと相
談窓口

小金包
括

新松戸
包括

馬橋西
包括

馬橋
包括

ハートオン

連携

精神保健福祉士
(包括化推進員)

障害分野の相談

基幹相談支援センターCOCO
虐待防止・差別相談センター

福祉相談
機関連絡会

基幹型地域包括支援センター
福祉まるごと相談窓口

市地域ケア会議（市レベル）

- ◎役 割：市レベルの課題の解決
 - ・地域レベルでは解決できない課題
 - ・市全体で対応すべき課題
- ◎メンバー：関係団体・機関の代表等
- ◎事務局：松戸市（高齢者支援課）
- ◎開催回数：年2回程度

解決

- ・関係団体・機関等での取組
- ・行政による対応
- ・他の会議等への提言

地域レベルでは解決できない課題

地域包括ケア推進会議（地域レベル）

- ◎役 割：地域レベルの課題の解決
 - ・個別事例の検討から把握された課題
 - ・地域の専門職・関係者が把握した課題
- ◎メンバー：地域の専門職・関係者
地域包括支援センター（事務局）
- ◎開催回数：年2回程度

解決

- ・地域の専門職・関係者による取組

個別事例の検討から把握された地域レベルの課題

地域個別ケア会議（地域レベル）

- ◎役 割：個別事例（困難事例等）の課題の解決
専門職への職務を通じたトレーニング（OJT）
- ◎メンバー：個別事例に関係する幅広い地域の専門職（医療・介護関係者以外も含む）など
地域包括支援センター（事務局）
- ◎開催回数：年4～6回程度

解決

- ・個別事例（困難事例等）への対応
- ・専門職の能力向上

※ 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議は、高齢者支援連絡会との連携など、地域の実情に応じて開催。

松戸市地域ケア会議の個別事例から抽出した地域の課題

地域ケア会議の各個別事例（困難事例等）は、独居・認知症のほか、地縁の欠如、家族の課題（障害など）、助けを求める力の欠如（サービス利用拒否など）、医療連携（かかりつけ医不在など）といった複合化した課題を抱えている。

事例	地域関連				家族関連		本人関連			医療連携			
	見守り不在	地縁の欠如	ゴミ出し問題	その他	世帯の困難	その他	助けを求める力の欠如	認知症	その他	かかりつけ医不在	医療連携困難	精神疾患	その他疾病
A					独居		サービス利用拒否	疑い		○			
B						家族要介護者				○		○	
C					独居			疑い		○			
D		○			独居		ゴミ屋敷						
E		○			実態独居					○	○		がん
F	○				独居		サービス利用拒否	○		○			
G					日中独居	家族不干涉		○					アルコール
H		○					サービス利用拒否	○		○			
I	○			個人情報	日中独居			○	買い物				
J		○		個人情報	独居			○	徘徊				
K	○				認認世帯	家族関与拒否							
L	○		○		独居			○		○	服薬困難		
M					独居	家族不干涉	サービス利用拒否	疑い		○			
N						家族障害者							脳疾患
O		○								不信感		○	8

地域ケア会議の共生対応化

1 「持ち寄り型」の地域づくり連携

15圏域における「**地域づくりフォーラム**」の実施を通じて、地域の住民が、自分の住む地域の課題を認識し、自分たちで解決する意識を醸成します。課題を持ち寄り、地域の資源を持ち寄り、個々人の持っている力を持ち寄り、**地域ケア会議に集約**していく仕組みづくりを推進します。

2 松戸市地域ケア会議での課題解決

地域包括支援センターが開催する「地域個別ケア会議」「地域包括ケア推進会議を、高齢者だけでなく、地域で生活するすべての人が集い、考える場として共生対応化します。平成30年度は、様々な視点で地域の強みを考え、共有し、地域を知る「**地域づくりフォーラム**」を15圏域で開催し、「**共生**」の地域づくりという市民意識を醸成します。

【現状】

市地域ケア会議（市レベル）
◎メンバー：関係団体・機関の代表等

地域包括ケア推進会議（地域レベル）
◎メンバー：地域の専門職・関係者
地域包括支援センター（事務局）

地域個別ケア会議（地域レベル）
◎メンバー：個別事例に関係する幅広い地域の専門職（医療・介護関係者以外も含む）など
地域包括支援センター（事務局）

【H30年度】

地域づくりフォーラムの開催

15圏域で、「地域」を考えるフォーラムを開催し、市民の意識を高めます



それぞれの持つ知恵や専門性を持ち寄る地域ケア会議

地域づくりフォーラムの開催

まつどNPO協議会(市民活動サポートセンター)・地域包括支援センター・聖徳大学・高齢者支援課が協働し、15圏域で「地域づくりフォーラム」を開催することにより、「地域の課題を地域で考える」意識を醸成し、「地域ケア会議」における課題検討・解決の仕組みを周知します。

【地域共生社会にむけた取り組みの推進経過】

H29年度

- 福祉相談機関連絡会の立ち上げ(4回開催)
- 堺市・鴨川市・世田谷区視察
- 11/28 関係課職員勉強会の開催
講師:厚生労働省 政策企画官 野崎伸一氏
- 千葉県主催
我が事・丸ごとの包括的な支援体制整備に係る研修会報告

H30年度

- 5/15 「地域共生社会を考える我が事・丸ごと まつどDEトーク」の開催
講師:厚生労働省 政策企画官 野崎伸一氏
- 7/20 地域ケア会議研修会
「全ての人に居場所と出番のある地域づくり」
講師:法政大学教授 湯浅 誠氏
- 10/12 福祉長寿部部内研修「地域共生を考える」
講師:慶応義塾大学大学院教授 堀田聡子氏

**地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業を活用した
地域づくりフォーラムの開催** 平成30年9月補正予定1,275万円(補助率3/4)

【具体的取り組み】(H30.9～H31.3)

- ①「●●地区地域づくりフォーラム」実行委員会を結成
包括・NPO協議会・聖徳大学
- ②実行委員会の開催
企画の検討
- ③地域づくりフォーラムの開催
- ④振り返り勉強会の開催

地域づくりフォーラム開催例

課題:地域に集える場所がない
「誰もが集える居場所づくり」をテーマにフォーラムを開催(アイデアを持ち寄る)



地域包括ケア推進会議で実現に向けた検討につなげる

小金地区

地域づくりフォーラム

概要：2019年2月23日
(土) 10時～13時半
@小金小学校～第2いぶきの広場

内容

- ①子ども・保護者・地域のシニアが混じった班で街の福祉資源をまわる
- ②地域の人たちによる炊き出しをみんなで食べる

主催：小金地域づくりフォーラム実行委員会
松戸市高齢者支援課

小金発見!!

ミステリー ツアー

2/23 (土)

～ヒントをもとにミッションクリア～

最後はトン汁&つきたて餅をみんなで食べよう!!

小金に突然やってきた宿敵「ショウシコウレイカー」





小金の福祉資源や歴史を感じる場所を



まわりながらコミュニケーションを図る



小金地区でのフォーラムのねらい

● 実行委員会のメンバー（4名）

…民生委員の方、障がい施設運営者、子ども食堂運営者、地域のサロン運営者

● 話し合いの経緯（地域の課題感）

- 小金**地区内での壁**…線路による分断・国道6号による分断
- 地域で活発に動いている人たち⇔**新しい世代のコミュニティ**のズレ
- 学校単位での地域参加のイベントが活発だが、**地縁は弱まっている**
- 障がいを持っている当事者が地域の中で人と接点を持つことが少ない。特に精神障がいについて**理解が進まず孤立しがち**。
- 介護者問題…特に男性介護者が**親への虐待や介護の放棄**といった状態に陥ってしまいがちで、ひきこもっている人もいる。

小金地区でのフォーラムのねらい

- ① 支援が必要な人たちは自分自身が「必要」と感じていない
- ② 表面的に「困っていない」人たちに対する壁や先入観を変える
- ③ ゆるやかでもお互いにつながっている・見守れる関係づくり
- ④ 地域をより良くしたいと考える人たちの資源を力につなげる

あまり地域とのつながりのない人・特に子育て世代に

相談できる窓口を
知ってもらう

地域の顔の見える
関係をつくる

小金への愛着を
感じてほしい

●参加者：143名 ●スタッフ：約100名！（15地区最多？）

●参加者の傾向

- ・全体の8割くらいは保護者と子ども（約半分）
- ・子どもは小学校低学年を中心に乳幼児も何組か同伴
- ・1割～2割が街歩きを目的にきたシニア層
- ・学校を經由してもらったチラシを見た方が多い
- ・子どもたちはエンターテインメントを期待していた？
- ・一方シニアの方々は濃い地域話を期待していた？

- ・民生委員（南部＆北部）
- ・町会自治会
- ・青少年相談員
- ・地区社会福祉協議会
- ・オレンジ協力員
- ・障がい・高齢者施設
- ・子育て支援団体
- ・地域サロン
- ・子ども食堂
- ・小学校 などなど

●参加した人の声

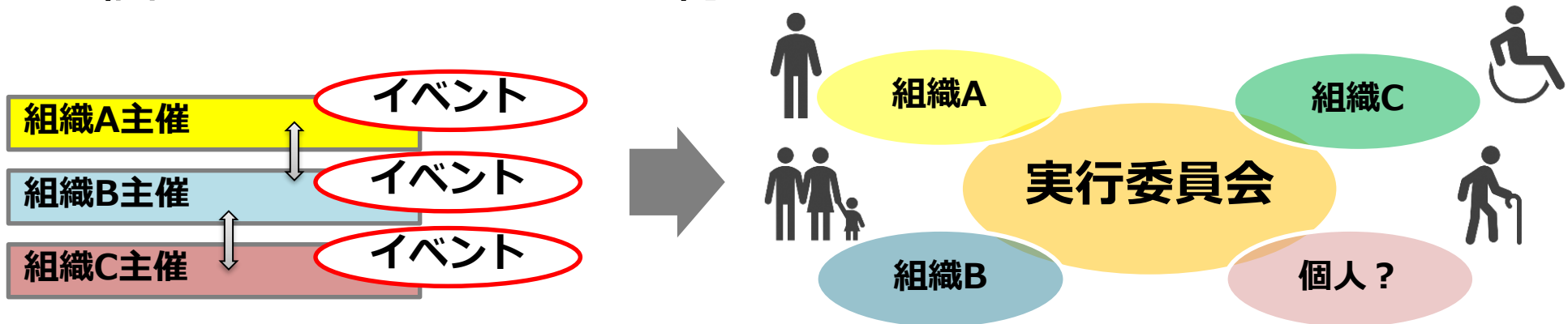
- ・5歳と1歳の子どもと参加しました。内容はすごくおもしろく、発見ばかりでした。
- ・みんなで**助け合って生活していくんだな**と思いました。またこのような機会があれば参加したいです。お年寄りに対しての支援が充実していること（**意外でした**）
- ・**初対面の方々とお話ししながら**まわってたのしかったです。スタッフの方が付いていて安心してまわることができました。
- ・**歴史のあるまちだと再認識**しました。しかも身近に！

今後の展望とアイデア

＜現役世代の次の担い手を巻き込むアプローチ＞



＜個人をベースにした有志だからこそできること＞



新松戸地区 地域づくり フォーラム

- テーマ
「食」でつながる、新松戸。
- 日時
平成31年3月9日(土)
14:00～16:30
- 会場
新松戸市民センター 2Fホール
- 協力団体(実行委員)
アルク友の会、五番街ふれあい
センター、NPO法人さわやか福祉
の会松戸くらしの助っ人、新松戸
地域包括支援センター、新松戸
地区高齢者支援連絡会、新松戸
みんなの食堂、NPO法人まつど
NPO協議会、NPO法人MamaCan

「食」でつながる、新松戸。

高齢者向けのお食事会やサロン・子ども食堂など、増えてきた「食」「お茶」でのつながりづくり。会を続ける中での担い手集めや、参加者を募っていくための、知恵や悩みを出し合いませんか？



要申込

無料
定員
100名

申込・問合先…
新松戸地域包括支援センター
TEL 047(346)2510
FAX (346)2514
Eメール zaishi.smt@ims.gr.jp

平成31年 2019 Mar. 9 土曜日
14:00 - 16:30

会場：新松戸市民センター 2Fホール

主催：新松戸地区地域づくりフォーラム実行委員会、松戸市高齢者支援課
協力：アルク友の会、五番街ふれあいセンター、NPO法人さわやか福祉の会松戸くらしの助っ人、新松戸地域包括支援センター、
新松戸地区高齢者支援連絡会、新松戸みんなの食堂、NPO法人まつど NPO 協議会、NPO 法人 MamaCan

新松戸地区の背景・課題

「子どもが安心して歩ける街、
シニアも安心してくらせる街
＝切れ目の無い街」

現場の人たちの想い・
お互いのやっていること、
課題を共有する



フォーラム様子



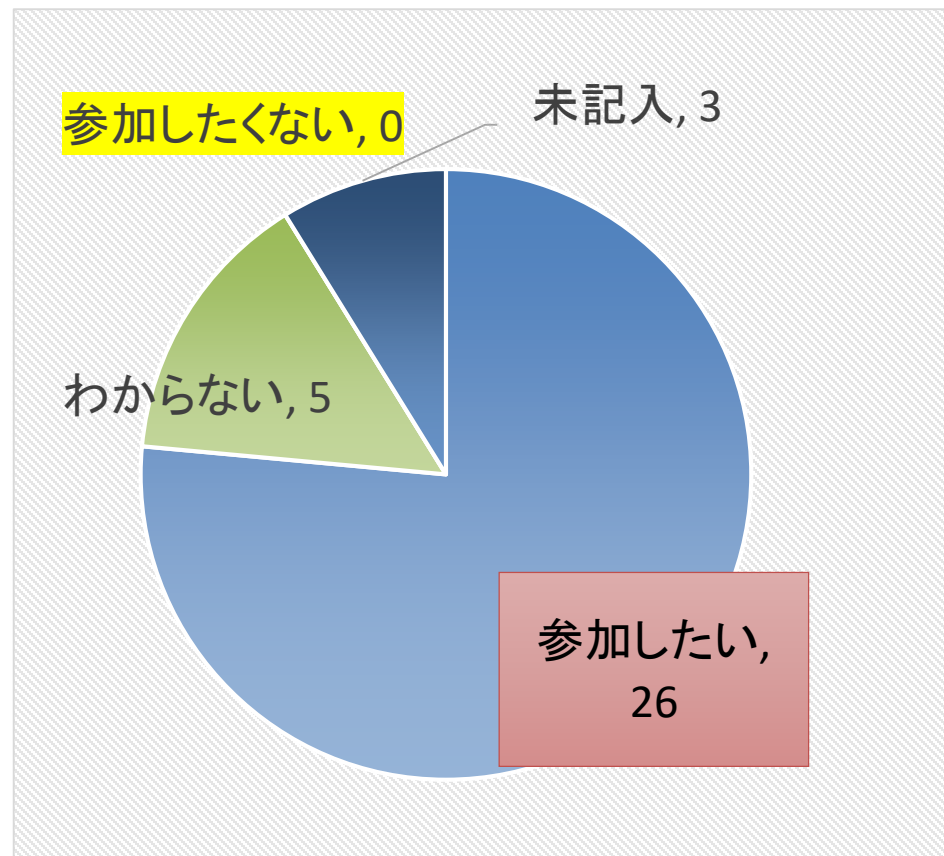
参加者

• 属性
34名

• 特徴
マンション 25
戸建て 9

• 参加者の声

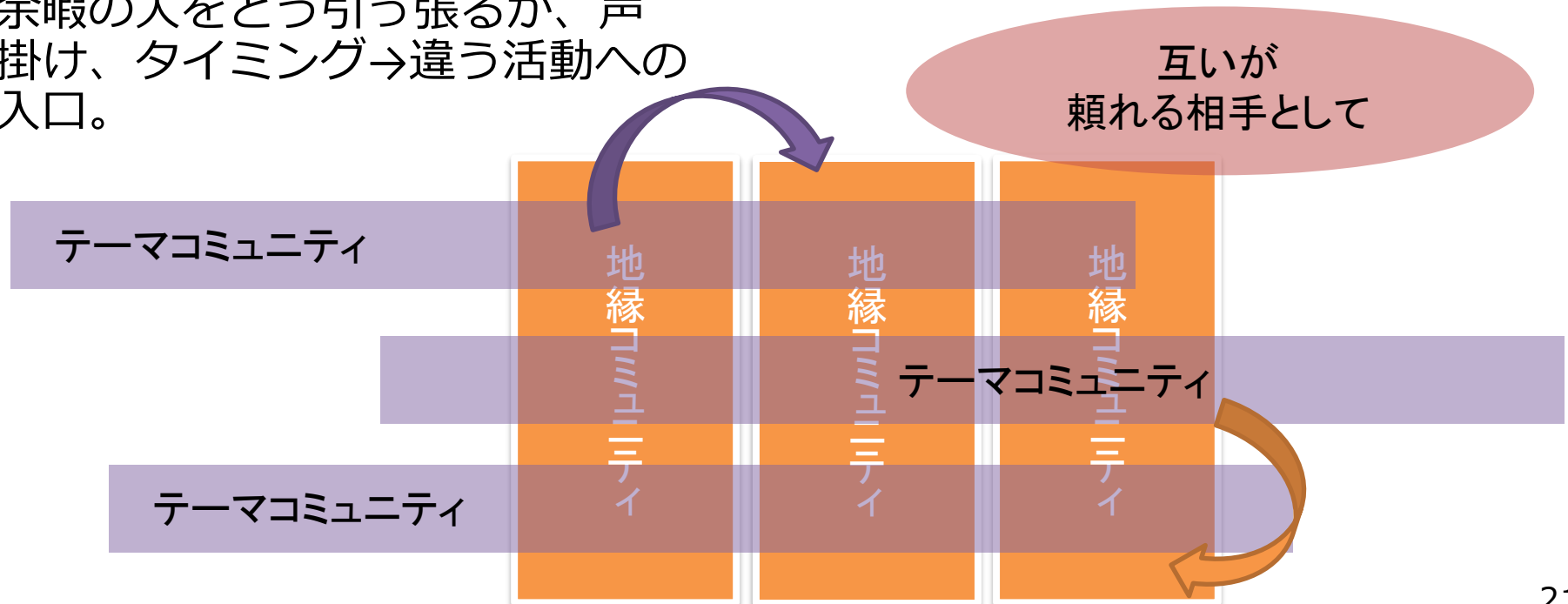
- 『食』に関する内容がテーマと思って参加した"地域づくり"が主な内容であることが分かり、かえって色々勉強出来、それぞれの悩みが同じと言う事も納得。戸建ての町会の大きな悩みも痛切に感じた。
- 町会、マンションの取り組みはとても勉強になった。
- 他所の活動例を知ることができた。2丁目の活動の参考になった。
- 良い企画。ダンボールの円卓good idea。個人情報の扱い、どのグループも悩みの種。



展望

- 「全町会」ではない。どうやって来てもらうか。継続は力なり。
- 「鍵を締めて、ひとりで暮らしたい人」と「コミュニティがあったほうがいい人」、コミュニティへの期待が増えてきた気がする、変化を感じる。ドアをあける働きかけをしたい。
- 余暇の人をどう引っ張るか、声掛け、タイミング→違う活動への入口。

- 今回は先行している事例を、自団体を振り返って考え、取り込む内容。次回は、困っている課題の発表をしてもらい、解決のアイデア・プランを寄ってたかって出し合う。
- 聞いた人が半年くらいしてどうなったか聞いてみたい。新しく芽吹いているところ。→全力で応援。



施策の方向性 市民自治課の立場から

包括的相談支援体制構築の取り組み

専門人材の機能強化
最大活用

地域を基盤とする
包括的支援の強化

市民部の担う部分

地域力強化の取り組み

地域課題の
発見力・解決力の強化

市民代表制度・地区意見交換会
の機能強化

地域丸ごとの
つながりの強化

地域の人材育成・町会自治会活動と市
民活動の活性化

町会自治会（地縁団体）の現状と課題

- 町会自治会数 354 184,001世帯 323連合会加盟数
- 地域代表制度の3年目⇒15地区の意識が芽生えてきた

町会自治会活動の課題：活動基盤の弱体化

担い手の確保

活動拠点の確保

活動基盤の弱体化

活動の負荷

活動費の確保

すべての人が、孤立せずに、必要な支援を受けながら、役割と生きがいを持って、その人らしい生活を送るためのセーフティネットが必要

現状

市民活動団体の現状と課題

NPO法人数

H28	H30	H31(目標値)
151	151	160

サポセン届出団体数

H28	H30	H31(目標値)
410	553	400

課題

人材・担い手・後継者不足
担い手の高齢化

市民活動意識の醸成

情報発信
広報力不足

地域力強化のための方向性①

地域力を強化するためには・・・

町会自治会だけで解決するのは難しい。地域づくりにおける「課題縁」(義理・義務・お世話)と「関心縁」(ワクワク・ドキドキ・こんなことやりたい)を重ねて、広げることで、柔軟性、対応力、課題解決力が向上。

①地域ケア会議に市民自治課の職員がコミット

求められているのは、
職員のコーディネート・
ソーシャルワーク機能

町会・自治会

地域の課題を地域ケア会議につなぎます。

市地域ケア会議（市レベル）

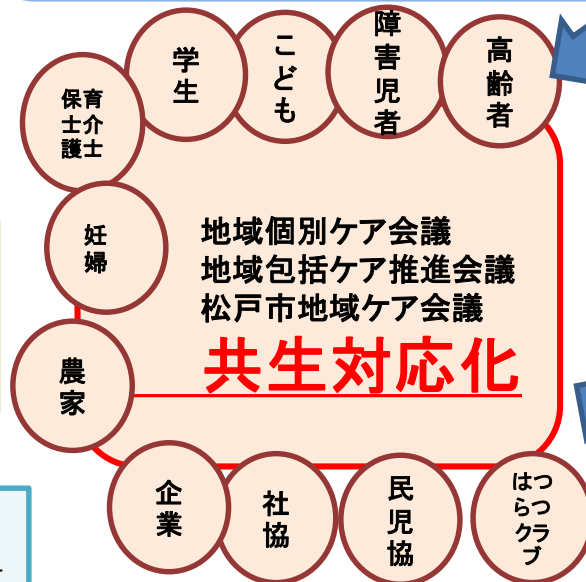
◎メンバー：関係団体・機関の代表等

地域包括ケア推進会議（地域レベル）

◎メンバー：地域の専門職・関係者
地域包括支援センター（事務局）

地域個別ケア会議（地域レベル）

◎メンバー：個別事例に関係する幅広い地域の専門職（医療・介護関係者以外も含む）など
地域包括支援センター（事務局）



市民活動

サポートセンター

地域で活躍する担い手を育成します。

NPO・市民活動

NPO協議会が15地区の生活支援コーディネーターを担います

地域力強化のための方向性②

② 地域で活躍する人材の確保・育成

地域活躍塾の拡充

レッツ体験の参加促進

プロボノチャレンジとの連携

市民活動サポートセンターの人材育成講座の充実と連携

求められているのは、職員の
コーディネート・ソーシャル
ワーク機能

街に
やさしい
人づくり
の推進

【視点】

- ・どんな人にも「出番」をつくる仕掛け
- ・他分野での取り組みとの連携
- ・市全体で地域活動を盛り上げる（価値を評価する）取り組みの推進（ムーブメント・市の政策戦略として人材育成

ポイント：シティプロモーション・おしゃれに面白く美味しい企画

マッチ
ング

●育成した人材をうまく
地域活動と結びつける
⇒ 多様な社会活動の確保（出口支援）

●町会・自治会と他分野（市民活動・協働事業等）の活動との連携の推進